

# 生産者通信

(旬)エコ・ライス新編  
定価 100円(送料込)

## 山田錦を80%作付けする巨大農場

### 圧倒的な大農場と機械力、アメリカの米生産現場のリアル

その2 報告者：中野正崇

彼らの経営規模を見る限り、日本のコンバインは興味もない、知らないという勝手に思っていました。そんなことはありませんでした。日本のコンバインのデバイダは倒れている稲を起こしてくるから素晴らしいと日本のコンバインの刈取作業の動画を見せてくれたのです。なぜこの動画を見せられたのかというと、イズベルファームの山田錦の圃場はほぼ全て倒伏し刈取の生産性が下がるからなんとか解決したいとのことでした。価格を聞かれたので2千万円ですと答えた後日本のコンバインの刈幅や刈取速度を説明すると、なるほどと興味深げにうなずき、そのあと一言「じゃあ5台必要だな」。これには笑いました。おもちゃのコンバインを買っくんじやないんだからクリスさん。契約

書を持っていかなくったことをこんなに後悔した日はありません。乾燥調整については、日本とは少し違っています。乾燥には灯油を使わず、送風のみで3週間かけて乾燥させるそうです。また農場では乾燥までを行い、その後の調製作業は別の共同施設で行うとのことでした。乾燥機というよりはサイロですが、作りは非常にシンプルなので乾燥中のリスクが少ない点は大きなメリットです。

さて、このように大きな機械が活躍できる理由は驚くほどの大区画圃場にありませう。「どれがあなたたちの圃場ですか？」と聞くと「見えるところ全てが私たちの圃場さ」と答えてくれました。右にある地平線から、左にある地平線までといった感じです。聞けば1枚の圃場が40haでそれが何枚も続いているのです。最近では田んぼの様子はどうローンで観察していると

おっしゃっていました。畔は基本的には車が通れるので畔というより道でした。歩くというより車で走る感覚のようです。トラクタにモアをつけて行っているようでした。そして圃場には日本のように水をちゃんと入れていきます。2カ所の給水口があり、16インチほどのパイプから水が流れてます。2〜3日で圃場全体に水がある程度溜まることでした。また個人で所有する貯水池があり、数ヘクタールは楽にありそうなので、そこから圃場へ水をかけることができるようになっていました。

今回の出張では桁違いの圃場と機械を実際に見ることができ、大変勉強になりました。素晴らしい経験を通して頂きました。彼らと時間を過ごした2日間を通して印象に残った会話があります。クリスさんは「農業をするという生き方は素晴らしい、これを失いたくない」、マークさんは「農業をビジネスとして見ることは重要だが、もつと大切なことがある」と。国や経営規模は違えどやはり同じ農業者なわけです。農業に誇りを持って生きていく姿や思いが伝わった時間でした。昨今急激に変化する農業の現場では、未来を予測するのは非常に難しくなっています。しかしかなりの高確率で予測できることがあります。それは農業者が減るといこととです。アメリカの農業者人口も日本と同じように減っているという話がありました。農業の悩みや問題は国が違っても同じなのです。農業者が減る日本では更なる機械化と圃場の大規模化が進むと考えると間違いのないでしょう。アメリカの真似ができるかと言えども出来ないことがほとんどかもしれない。ただ、どう対処していくかという課題解決のヒントがアメリカにあるように感じました。今回の経験を伝えるべくたくさんの方に伝え、みなさんのこれからの農業に何かヒントやきっかけを与えられればと思います。



パリ・パラリンピック  
金メダル  
おめでとう!

車いすラグビー  
日本代表